

# 資源循環型社会の形成

## 考え方

IHIグループは、持続可能な社会の実現に向けて廃棄物や水資源を適切に管理し、資源効率の向上と環境負荷の低減に努めています。

廃棄物は、3R(Reduce, Reuse, Recycle)を推進し、各環境管理拠点で発生した廃棄物を適正に管理・処分しています。

水資源は、安定的な水源からの計画的な取水と、設備の適切な保全を通じて、適正な水利用の管理や汚染物質の流出防止に努めています。

化学物質については、「IHIグループ化学物質情報管理基本方針」を定めています。これは、製品・サービスを上市する国・地域の化学物質に関する法令や、お客さまの要求事項で規制された禁止物質・管理物質を特定し、サプライチェーンを通じて適切に製品含有化学物質を把握・管理することで、IHIグループの製品・サービスが健康、環境に与える影響を最小限にすることを目指しています。

## 体制

IHIグループは、資源循環の取り組み方針や重要事項について、総務関連事項担当役員を委員長とする全社委員会である環境委員会において審議・決定しています。

## 目標・実績

活動計画	目標	KPI	基準年度 (2018年度) の実績	2019年度 の実績
工場・事務所などにおける環境負荷低減	2019～2021年度の各年度の廃棄物排出量は、2018年度の量を上回らないこと	廃棄物排出量 (トン)	29,010	27,564
	2019～2021年度の各年度の取水量※は、2018年度の量を上回らないこと	取水量 (千㎡)	4,182	4,251

※2019年度より水資源使用量から取水量へと名称を改めました。

(対象：IHIおよび連結子会社)

項目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
廃棄物	廃棄物排出量(トン)	30,531	28,691	29,010	27,564
	有害廃棄物排出量※1(トン)	—	—	—	164
	リサイクル量※2(トン)	—	—	—	61,799
水	取水量(千㎡)	4,169	3,776	4,182	4,251
	上水(千㎡)	—	—	—	750
	工業用水(千㎡)	—	—	—	868
	地下水(千㎡)	—	—	—	1,948
	雨水、河川、湖など(千㎡)	—	—	—	685

※1 特定有害廃棄物と特管廃棄物のうち感染性廃棄物の合計

※2 有価物化した廃棄物

## 資源循環型社会の形成

### 取組み

#### ●廃棄物

IHIグループは、工場生産における歩留まり向上や分別による再資源化などにより、廃棄物の削減に取り組んでいます。

同時に廃棄物の管理として、廃棄物の収集・運搬や処分に関する委託契約の確認、電子マニフェストによる確実な最終処分の確認、廃棄物の中間処分・最終処分場の現地訪問などを通して、廃棄物が適正に処分されていることを確認しています。

#### ●水資源

IHIグループは、工場・事業所などで公共の上水や工業用水だけでなく、河川水や地下水など安定的な水源から計画的に取水し、取水源ごとの取水量を各拠点で把握・管理しています。また、廃水の漏水による土壌汚染や汚染物質の流出による公共水域の汚染を防止するため、老朽化した埋設管や排水処理設備の計画的な保全・更新に取り組んでいます。

2019年度は、13拠点で水利用の管理状況や水リスクについて調査を実施しました。

なお、本稿における「水リスク」とは、主として工場・事務所などからの排水が公共水域を汚染させてしまうリスクを意味しています。これについて、拠点を訪問して担当者とヒアリングを行ない、実際に現場を点検することで、適切に管理されていることの確認と、水リスクに関する認識の共有化を図っています。今後も現地訪問を実施していない工場の水リスクの有無について調査する予定です。

#### ●化学物質

IHIグループは、製品に含まれる化学物質について、年々厳しくなる規制に対応しています。サプライチェーンを通じて製品含有化学物質情報を入手し、使用禁止物質が含まれていないことを確認し、お客さまにその情報を提供する仕組みづくりを進めています。製品含有化学物質規制は、先行するEUだけでなく、北米やアジアでも強化される傾向にあり、事業リスクのひとつとして製品ごとに規制の内容を把握し、必要な対応を行なっています。